

受験生アンケート[公立中高一貫校受検編]

最後まで習い事辞めずに勉強と両立 受験生の約半数 公立中高一貫校を受検するきっかけは「子ども自身」が最多

株式会社栄光(本社:東京都千代田区 代表取締役社長:下田勝昭)が運営する進学塾・栄光ゼミナールは、2019年1月1日(火)~3月28日(木)に、この春、公立中高一貫校を受検した受験生とその保護者を対象に、「受験生アンケート」を実施しました。

※私立・国立中学校の場合は、入学のために入学試験を受けるため「受験」、公立中高一貫校の場合は、学力検査や適性検査を受けることから「受検」という言葉が使われます。

両者を表す場合は「受験(受検)」と記しています。

[公立中高一貫校受検]

- 受験生の半数以上が「**小学5年生**」に受検を意識して塾に通いはじめた
- 志望校選びで重視したこと「**学校の教育方針・校風**」と「**中高一貫指導**」
- 受験生にとって「受検」とは「**学力向上**」「**自分の力を試せた**」「**精神的な成長**」
- 受検に必要なこと「**困難に立ち向かう強い気持ち**」「**友人やライバル**」
- 最初に公立中高一貫校受検を考えたのは「**子ども**」が43.3%
- 受験生の約半数 習い事・クラブを「**辞めずに続けた**」

栄光ゼミナール調べ

<調査概要>

調査対象:栄光の教室に在籍していて、2019年に公立中高一貫校を受検した受験生とその保護者

調査方法:インターネット調査

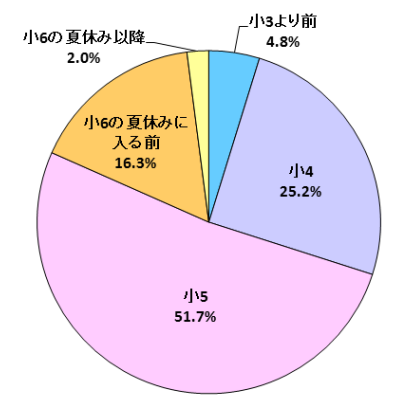
調査期間:2019年1月1日(火)~3月28日(木)

回答者数:受験生148人、保護者164人

【受験生】公立中高一貫校受検を意識して塾に通い始めたのはいつですか。

(n=147、単一回答方式)

受検を意識して塾に通い始めたのはいつですか



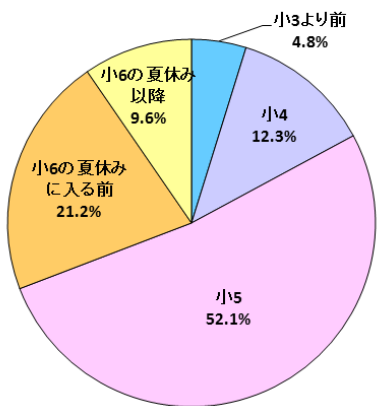
受験生に、公立中高一貫校受検を意識して塾に通い始めた時期を聞いたところ、最も多かったのは「**小学5年生**」で**51.7%**だった。次いで、「**小学4年生**」が**25.2%**だった。

ここ数年、公立中高一貫校に合格するためには、適性検査や作文に特化した対策が必要であるという認識が受験生や保護者に広がりつつある。そのため、小学4・5年生から通塾して公立中高一貫校受検のための勉強をしていた受験生が多いと考えられる。

【受験生】第一志望校を決定したのはいつ頃ですか。

(n=146、単一回答方式)

第一志望校を決定したのはいつ頃ですか



受験生に、第一志望校を決定した時期を聞いたところ、52.1%が「小学5年生」と回答した。

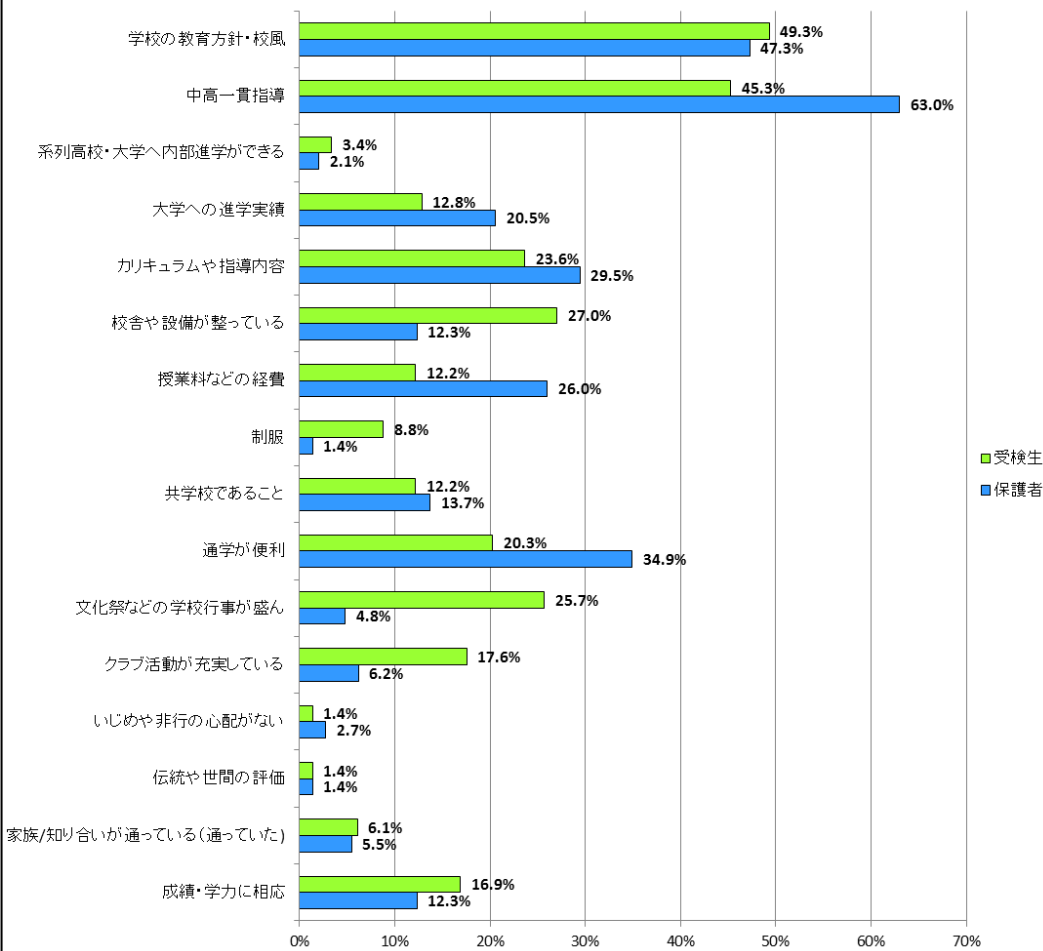
受験を意識して塾に通い始めた時期と重なっていることから、公立中高一貫校の受験生は、受験する学校をある程度決めた段階で、塾に通い始める場合が多いということが明らかとなった。

公立中高一貫校は私立・国立中学校と比べて、居住地によって受験に制限がある学校が多い。私立・国立中学校よりも選択肢が少ないため、志望校を決めやすいことも影響していると考えられる。

【受験生・保護者】志望校を決定する上で重視したポイントを教えてください。

(受験生:n=148、総回答数 425 保護者:n=146、総回答数 414 複数回答方式(最大3つまで))

志望校を決定する上で重視したポイントは何ですか

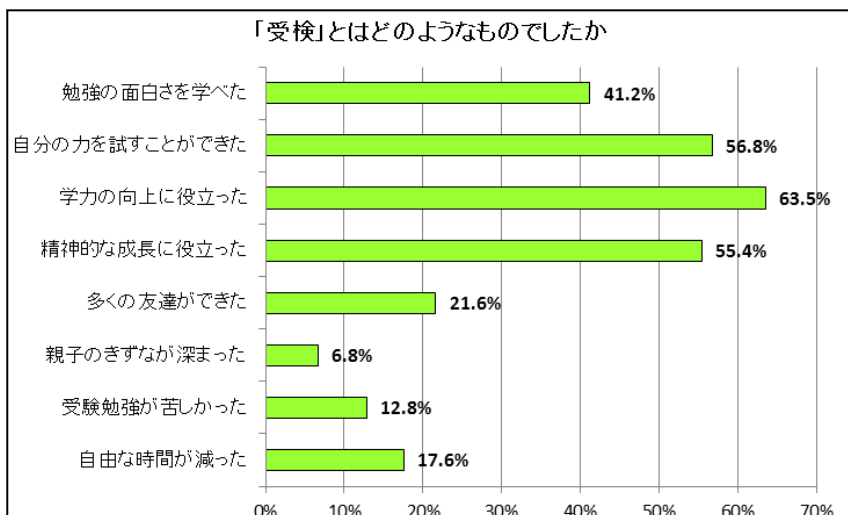


受験生と保護者に、志望校を決定する上で重視した点を聞いたところ、受験生が重視している点は、「学校の教育方針・校風」49.3%、「中高一貫指導」45.3%だった。保護者についても、同項目を重視している傾向にあり、特に「中高一貫指導」と回答する保護者が多かった。

受験生と保護者を比較すると、受験生は「校舎や設備が整っている」や「文化祭などの学校行事が盛ん」、「クラブ活動が充実している」など、学校生活をより重視する傾向であることが明らかとなった。

【受検生】「受検」とはどのようなものだったと感じますか。

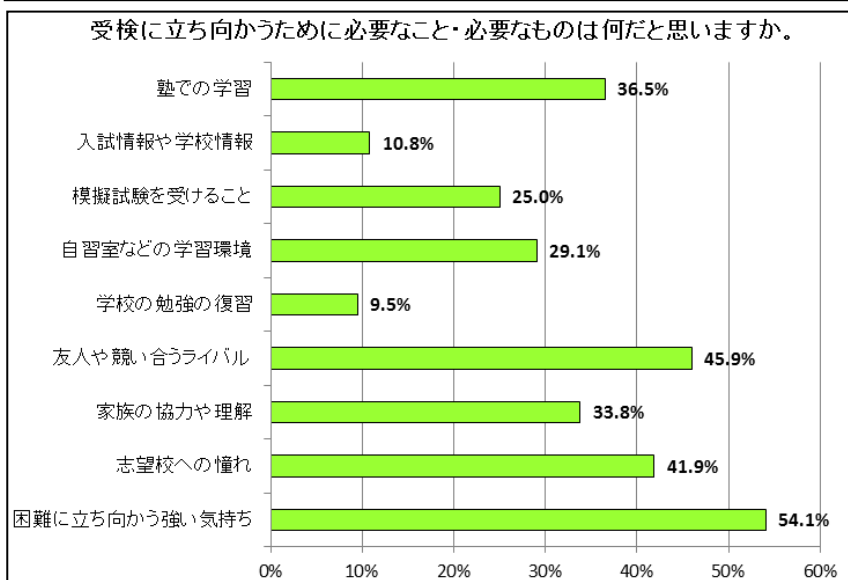
(n=148、総回答数 415、複数回答方式(最大3つまで))



受検生に、「受検」とはどのようなものだったかを聞いたところ、最も多くの受検生が回答したのは「学力の向上に役立った」で63.5%にのぼった。また、「自分の力を試すことができた」や「精神的な成長に役立った」も半数以上の受検生が感じていると答え、公立中高一貫校を受検した経験をプラスにとらえている受検生が多いことが明らかとなった。

【受検生】公立中高一貫校受検に立ち向かうために必要なこと・必要なものは何だと思えますか。

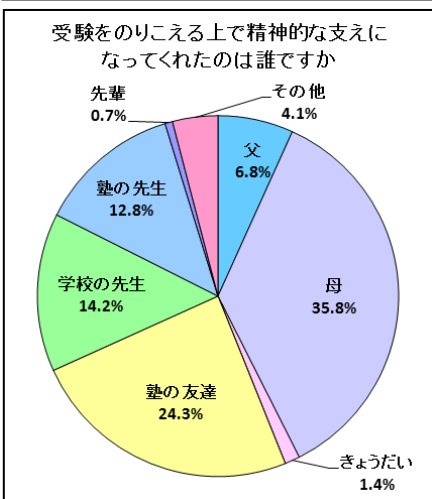
(n=148、総回答数 424、複数回答方式(最大3つまで))



受検生に、公立中高一貫校の受検に立ち向かうために必要なこと・必要なものを聞いたところ、54.1%の受検生が「困難に立ち向かう強い気持ち」と回答した。また、「友人や競い合うライバル」が必要だと回答した受検生も 45.9%だった。特に首都圏では、公立中高一貫校受検は、私立・国立中学校と比べると非常に高倍率である。また一部を除き、基本的に1校しか受検できない。厳しい受検であるため、強い気持ちをもって挑むことが必要だと感じた受検生が多いと考えられる。

【受検生】受検をのりこえる上で精神的な支えになってくれたのは誰ですか。

(n=148、単一回答方式)

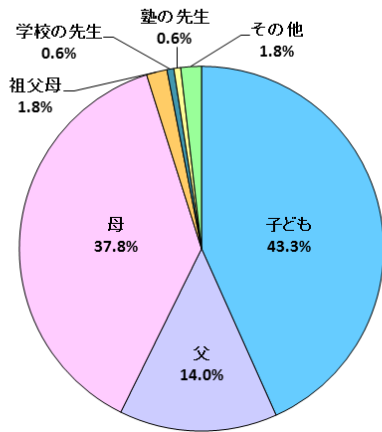


受検生に、受検を乗り越える上で、精神的な支えとなった人を聞いたところ、受検生の3人に1人以上が「母」と回答した。次いで、「塾の友達」が多く、24.3%だった。そのほか、「学校の先生」や「塾の先生」と答えた受検生もおり、家庭や学校、塾などで接する周囲の大人が受検生の支えとなっていることが分かった。

【保護者】公立中高一貫校受検をしよう(させよう)と最初に考えたのはどなたですか。

(n=164、単一回答方式)

公立中高一貫校受検をしよう(させよう)と最初に考えたのはどなたですか



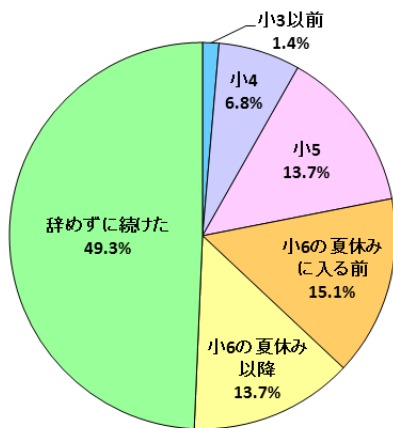
受検生の保護者に、最初に公立中高一貫校受検をしよう(させよう)と考えた人を聞いたところ、43.3%の保護者が「子ども」と回答した。次いで、「母」が37.8%、「父」が14.0%だった。

公立中高一貫校受検では、両親などの周囲の大人だけでなく、受検生自身がきっかけとなって受検するパターンも少なくないということが明らかとなった。

【保護者】習い事やクラブはいつ頃までつづけましたか。

(n=146、単一回答方式)

習い事やクラブはいつ頃まで続けましたか



受検生の保護者に、習い事やクラブを続けた時期を聞いたところ、49.3%の保護者が「辞めずに続けた」と答えた。また、小学5年生のうち4分の3以上の受検生が、習い事やクラブに取り組んでいた。

私立・国立中学校の受験生のうち、「辞めずに続けた」と回答したのは24.0%であった。私立・国立中学校の受験生よりも、公立中高一貫校を第一志望とする子どものほうが、習い事やクラブと受検勉強を両立していることが明らかとなった。

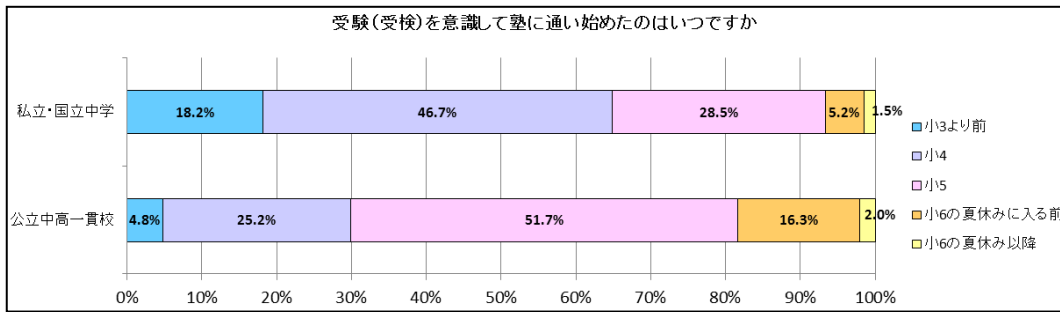
【保護者】受検期のお子さまとの関わりについて、どのようなことを心がけていましたか。

(自由記述方式)

- ・努力を大いに褒める。労をねぎらう。それから結果に向き合わせる、の繰り返しでした。
- ・否定はせず、対策と一緒に考えて前向きに考えられるように導く。子どもの状況や心情を親自身もきちんと把握する。
- ・受検がすべてではないということを親の私も子どもも意識するようにしました。
- ・食事の時間は子どもの好きな話題を交え気分転換できるよう心がけました。
- ・メンタルとフィジカルのバランスが取れるように、本人の意思を尊重したスケジュール管理と短期目標設定。
- ・勉強のことは極力口を出さず本人と先生方にまかせ、親の思い通りにならないときは先生に相談させていただき、先生から本人に言うようにした。
- ・本人が、「希望の中学に入学したい」という意欲を高めるための声かけをした。合格するかどうかは重視しなかった。
- ・テレビニュースや、普段の生活の中で疑問に思うことをすぐに答えを教えるのではなく、一緒に考え、調べる事を習慣にした。不合格だった時に受検勉強が無駄だったと思わせたくなかったので、好きな習い事は辞めさせなかった。
- ・家族一丸となって受検に取り組んでいることが、子どもにも伝わるように心がけました。
- ・塾の先生との連絡は密にして、メンタルのケアやバックアップを心がけた。

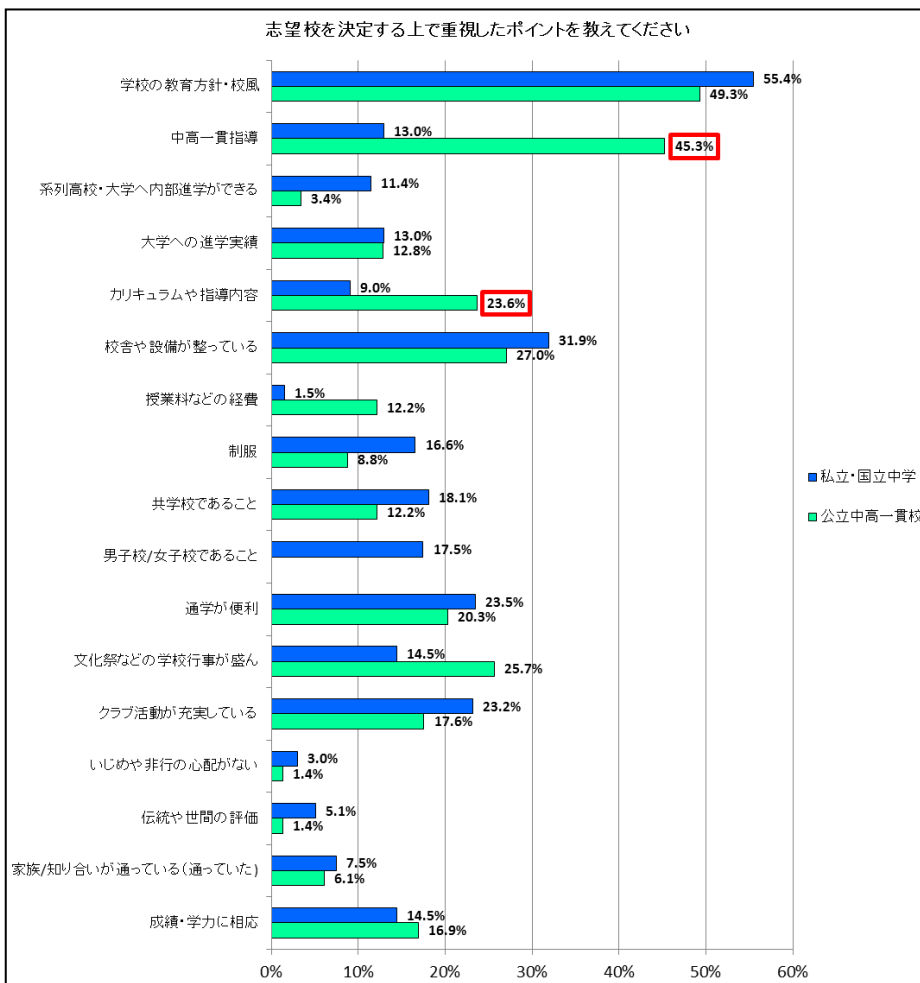
【私立・国立中学受験編】と【公立中高一貫校受験編】の比較

(1) 受験(受検)を意識して塾に通い始めたのはいつですか。(受験(受検)生)



私立・国立中学校の受験生の多くは、小学4年生から、公立中高一貫校の受験生の多くは、小学5年生から、通塾するという違いが明らかとなった。

(2) 志望校を決定する上で重視したポイントを教えてください。(受験(受検)生)

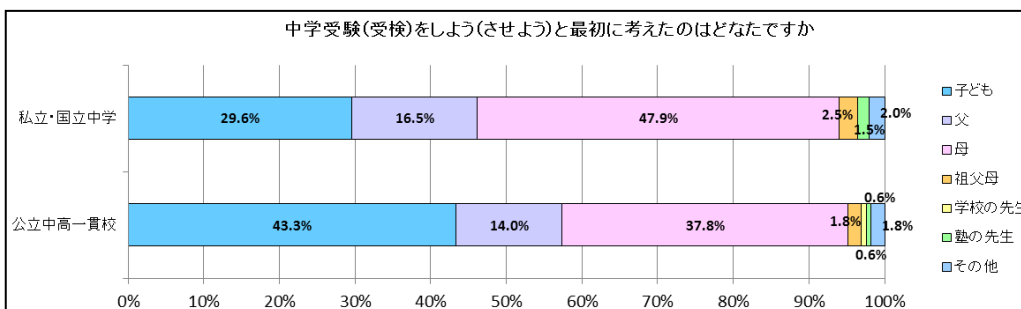


受験生が、志望校を決める際に重視したことを比較すると、大きく差がある項目は、「中高一貫指導」と「カリキュラムや指導内容」だった。

志望校を決める際、私立・国立中学校の受験生は、私立・国立中学校の中から比較検討して、志望校を決めていく場合が多い。そのため、「中高一貫指導」が前提条件となっており、比較項目にはならないと考えられる。

一方、公立中高一貫校受検の場合、地元の公立中学校と比較して、「中高一貫指導」と「カリキュラムや指導内容」を重視している受験生が多いのではないかと考えられる。

(3) 中学受験(受検)をしよう(させよう)と最初に考えたのはどなたですか。(保護者)



私立・国立中学校の受験生の保護者の多くは、「母」が最初に受験させようと考えたと回答した一方、公立中高一貫校の多くは「子ども」と回答し、受験(受検)のきっかけにも違いがあることが明らかとなった。

会社概要

中学受験、高校受験対策の学習塾「栄光ゼミナール」や個別指導で目標達成へ導く学習塾「栄光の個別ビザビ」、高校生対象の大学受験対策塾「大学受験ナビオ」等、首都圏を中心に全国 700 教室超を展開しています。生徒の学ぶ意欲を引出し、自ら学ぶ姿勢を育てることで、中学受験・高校受験・大学受験の合格へ導き、生徒・保護者の期待に全力で応えています。

そのほか、科学実験専門教室やロボット・プログラミング教室等も運営しています。

本社： 東京都千代田区富士見二丁目 11 番 11 号

代表： 代表取締役社長 下田 勝昭

設立： 1980 年7月

本件に関する問い合わせは

株式会社Z会ホールディングス広報 大久保・渡辺

電話：03-5275-1685 Fax :03-5275-1679 Mob :070-4036-1980

メールアドレス：proffice@zkai-hd.co.jp